

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成26年度 臨時評議員会 議事録

日時：平成27年1月11日(日) 17:00～19:23

場所：シダックスホール 2F Aホール

出席：＜評議員＞

片桐省三、田中雅之、藤原修、保坂明、沼澤宏、安齋司、岡田裕昭、遠藤嘉津敏、池田照、田中敏郎、大野健男、齋藤徳也、半田真一郎、天野寛、真田功、山田洋司、松倉弘英、林厚子、島澤司、渡邊正知、門川浩人、横山俊幸、後藤明、湯浅暢宏、新宅博生、宮倉義輝、岡嶋隆文、宇田川貴生、藤村昇、穂山靖夫、玉井尚樹、川武修、木下博順、山田司、近藤豊志、井手口孝、祖岩亨道、大塚英彰、野田明宏、加藤裕三、上元康正、木佐貫和昭、日越延利、安田勝彦、市川数馬、荒井邦夫、北澤和基、白谷慶子、増島篤、宮地弘孝、森崎秀昭、和田雅也の各評議員

＜理事＞

梅野哲雄、西川和人の各副会長、星芳樹専務理事、青木隆、河内敏光、熊谷秀樹、倉石平、小坂悦夫、佐々木三男、鮫島俊秀、品田奥義、庄司義明、西井歳晴、野村俊郎、橋本信雄、原田茂、林直樹、福井晴次、堀井幹也、森野和泰、吉田長寿、吉田利治の各理事

＜監事＞

榊原みどり、高原洋太郎の各監事

＜特任委員＞

片山正明、坂本昌彦の各特任委員

欠席：小野安壮、小林正三、中澤亨、中村哲夫、有本功、小口賢司の各評議員、

丸尾充副会長、岸本和巳、高橋雅弘の各理事、内山英司、小倉恭志の各特任委員

オブザーバー：金井克仁弁護士、望月浩一郎弁護士、境田正樹弁護士

1. 定足数の報告

吉田総務部長より定刻における出席者数の報告があり、定款第16条第2項に基づき、評議員総数(58名)の過半数の出席(出席:52名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

梅野副会長(会長職務代行)より開会の挨拶があった。

3. 議長選出

吉田総務部長より、議長選出にあたってはこれまでの評議員代表者による協議を受け、議長に中日本・奈良県の岡嶋隆文評議員、副議長に東日本・青森県の田中雅之評議員および西日本・岡山県の穂山靖夫評議員が推薦され、承認された。

4. 議事録署名人選出

議事録署名人については、定款第19条により議長および出席評議員の代表2名以上が必要になることから、議長より議事録署名人として林厚子評議員、大塚英彰評議員が推薦され、承認された。

5. 報告事項

報告事項に入る前に、理事全員の責任と辞任届の提出についての確認を求める意見があったが、これに対し、まずは予定されている報告内容の説明を受けるべきとの意見が出された。このことについて意見交換を行う中で、議長の進行に対して議長交代の緊急動議があり、賛成多数により、議長を田中雅之評議員(副議長)と交代することが承認された。

(1) FIBAからの指摘事項に関する件について (星専務理事他)

①これまでの経緯について

・FIBA指摘事項に関する主な経過

資料に基づき、FIBAからの指摘事項に関する主な経過(2013年12月～2014年12月)について報告された。

・統一リーグに関する経緯

資料に基づき、2005年bjリーグ発足以降の統一リーグに関する経緯について報告された。

・新リーグ設立組織委員会(及び推進メンバー会議)総括

統一リーグに関する総括として、新リーグ組織委員会の有識者(第三者)メンバーからの総括および意見が資料に基づき報告された。

・NBL、bjリーグ財務状況報告

現状把握のために高原監事を中心にNBL、bjリーグのリーグおよびチームの財務状況の調査を行い、今後のタスクフォースの動向を見ながら調査内容を生かしていく方針であることが報告された。

・FIBAワールド kongress(総会)のポイント

FIBAの方針を共有、認識するためにワールド kongress(世界総会)で報告されたFIBAのビジョン、戦略、現状認識、定款改定のポイント等が資料に基づき説明された。

・コンサルタントレポート

FIBAのアドバイスも受けて行った外部コンサルタントからのレポートが資料に基づき報告され、提案された内容については今後どう進めていくかを理事会にて協議していく方向であることが補足された。

・NFガバナンス強化支援策の概要(案)

参考として、文部科学省委託事業「スポーツ団体のガバナンスに関する協力者会議」から示された「NFガバナンス強化支援策の概要(案)」が資料に基づき説明された。

②FIBAとの会談内容について

FIBAからの制裁通知後、12月17日にFIBAとJBA幹部にて行われた会談の内容が資料に基づき報告された。

③その後の対応について

・緊急対策本部(組織、活動報告)

12月18日の理事会にてFIBA事案の対応として緊急対策本部を立ち上げたこと、また、本部会議の要旨が資料に基づき報告された。

・タスクフォースについて(JBA推薦メンバー、費用等)

タスクフォースに推薦するJBAからのメンバーは梅野会長職務代行とすること、タスクフォースに関する費用については概算見込として今年度1200万円を計上することを理事会で決定したこと等が資料に基づき報告された。

以上の報告を受け、次のような意見、質疑応答があった。

・透明性をもって情報は全てきちんと出してもらいたい。また、タスクフォースの費用について、全てJBAが負担しなければいけないのか。負担する部分については明確にして進めてほしい。

→情報については出していく方向でやっていきたい。タスクフォースの費用については全てJBA負担と言われているが、全容が掴めていないので、先程の報告にもあったとおり、タスクフォースの業務範囲および費用負担についてはFIBAに確認している。内閣府の指導等も受けながらやっていく。

・タスクフォース2024という名称になっているようだが、2024年まで続くものなのか。

→FIBAは、タスクフォースの役目は2020年の東京オリンピックではなく、その先を見越したビジョンを描くことと言っており、その意味でのネーミングであると推測される。また、タスクフォースについては6月までの6ヶ月に解決を目指すということを言及している。

・タスクフォースのJBA推薦メンバーの決定は理事会マターなのか。

→理事会決定であるが、皆さんにも賛同を得る意味で報告させていただいた。

・6月まで確実に制裁があれば、女子も含めて非常に大きな影響がある。また、国際審判もライセンスが無効になっているが、制裁解除後にライセンスは復活するのか。

→強化活動については海外遠征を国内強化合宿に振り替えることなどで調整している。国際審判のライセンスは停止状態なので、資格停止が解ければライセンスは復活する。

また、理事全員の辞任届の提出の事実について確認があったが、既に報告されている辞意表明で理解できることが確認された。

最後に、重要なことは早く問題を解決し、制裁を解除することであり、そのために一致団結して取り組んでいくことが確認された。

以上